

第3回勉強会

ITHRD「学びのコミュニティ」

テーマ コンピュータと教育

「コンピュータと教育」(佐伯胖著 岩波新書)の引用文を基に、『学び』についての知見を深める。
＜概要は「引用表紙」参照(引用及びコメント：木村)＞

初版は1986年(30有余年前)であるが、教育に対する深い洞察は現代にも十分通用する。
いや、むしろ今こそ著者の提言する内容をしっかり吟味しなくてはならない。
日本の長い低迷(「失われた30年」)の原因はほとんどこの本に書かれている。
そのことを、教育界もIT業界も(結果として)無視してしまったのだ。

DX(デジタルトランスフォーメーション)
今や(言い方はワルいが)猫も杓子もDXである。
国も「デジタル庁」を新設して本腰を入れようとしている。
だが、DXとは何か? その本質は?

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

これが経済産業省の定義だが、他にも各社各様の定義がある。
ただ、具体的にどうすればDXが実現できるかはほとんど誰にも分かっていない。
DXは2004年にスウェーデンのウメオ大学教授エリック・ストルターマンが提唱したものとされる。
彼は「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」と定義し、
その3つの特徴を提示している(内容は省略)だけで、具体的にどうするかについては言及していない。
もちろん、具体的にどうするかは各企業が(日本という国もだが)考えるべきである。
だが、その本来の意味(DXの本質)を理解せずに考えても、ただの流行で終わってしまうであろう。
Transform: 一変させる 何(what)を「トランスフォーメーション」する?
それはどう(how)すれば「一変」できる?

以下の3点を中心に皆で討論したいと思います

1. 引用者(木村)はこう思っています。賛成・反対意見を忌憚なく述べて下さい。
『ストルターマン教授はただキーワードを提示しただけ。佐伯氏はDXの本質を示している』
2. 真に「変革」すべきものは何だと思いますか? また、それはどうすれば実現できそうですか?
3. 今後の『人材育成』はどうあるべきでしょう?
(「わかる知力」「できる知力」を育てる方法は?)

木村利明
(「学びのコミュニティ」会長)